

である。三九年度に着工され、今後その促進をはかる。

## 水資源の開発

### 農業用水の効率的利用

農業水利施設の近代化によって用水のロスが少なくなり、水量が節約される反面、新規需要増も見込まれる。しかし、施設の近代化は、従来の取れるだけ水を取る方式から必要な時に必要な量だけ取る方式への移行を促し、水の効率的な利用がはかれることになる。それには、必要水量の絶対量の確保が前提となるので、調整ダムなどの促進のため水資源の開発をはかるとともに、農業者に対して合理的な水の利用についての指導を行なう必要がある。なお、効率的な水利の好例として、市房ダムによる球磨南部土地改良事業がある。

### 2 工業用水の合理的利用

#### 工業用水道の建設促進

八代工業用水道事業  
国営八代野土地改良事業の新道建設から取水し、既存工場ならびに八代臨海工業地帯に誘致される工場に工業用水を給水するものである。計画取水量は、五、五五<sup>三</sup>m<sup>3</sup>/秒(供給量四四万六、〇〇〇m<sup>3</sup>/日)である。

#### 有明工業用水道事業

菊池川から取水し、有明臨海工業地帯の立地工場に必要な工業用水を給水する計画であり、事業計画の調査検討をすすめる。

### 1 河川の総合開発

治水と利水の両目的を合理的に達成し、しかも水系を一貫して有効かつ総合的に開発するためには、多目的ダムの建設を極力促進しなければならぬ。なお、水資源涵養のための基本的な対策として、河川の上流水源地帯の保安林を整備し、森林のもつ涵水緩和作用を維持強化し多目的ダムの建設ならびに河川改修事業などといまわって、水資源の確保をはかる必要がある。

#### 菊池川総合開発

洪水調節、農業用水、工業用水、発電などに利用するため菊池川本流の上流部、あるいは支流迫間川、岩野川などに多目的ダムを調査検討しその促進をはかる。

#### 緑川総合開発

緑川の中流部、砥用町花定野地点に洪水調節、発電、農業用水、工業用水、上水道などに利用する多目的ダムを建設し、地域の総合開発をはかる計画で、数年來調査をすすめてきたが、その中心事業であるダムは、三九年度から建設省直轄で実施設計調査の段階にはいり、ダム着工の第一歩を踏みだした。

### 球磨川総合開発(相良ダム計画)

球磨川の治水の完璧を期するとともに、川辺川自体の治水の面から洪水調節を主とし、あわせて発電、農業などに利用する多目的ダムを川辺川に建設する計画について、関係機関である建設省、農林省、通産省、電源開発株式会社、地元町村などと連絡をとり、調査検討をすすめる。

#### 水川総合開発

水川水系の飛躍的發展をはかるため、泉村和小路地点に洪水調節、農業、上水道、発電などに利用する多目的ダムを、県下ではじめての補助ダム(県営)方式で建設する計画であり、その早期実現をはかる。

### 2 海面の開発

#### 羊角湾地域総合開発

天草下島の西南部の羊角湾の一部を締切って淡水湖をつくり、その用水を農業、上水道、工業など多目的に利用し、さらに複式干拓方式によって利用度の高い土地を造成し、農業、工業の開発を行ない、さらに観光、淡水水産業、防災に寄与し、地域の一大発展をはかる計画である。三九年度から農林省直轄で調査がすすめられているので、その早期着工を促進する。

#### 不知火海締切干拓

八代市地先と対岸の戸馳島を結んで不知火海を締切り、複式干拓方式によって

## 羊角湾地域をオレンジベルトに

### —羊角湾地域開発計画—

天草下島西南部、羊角湾地域の開発計画は、生産性の高いボンカン山の上まて栽培し、地域農業の開発をという構想が一つの端緒になった。それには豊富な土壌水分が必要とあって、水不足の羊角湾地域では、まず用水確保の問題があった。こうしたことから、羊角湾の豊かな水資源がクローズアップされた。

## 若返る玉名平野

### —玉名平野土地改良事業—

これまでの玉名平野における農業用水の状態は、一五〇年前に構築された旧白石堰によって下小田地区二〇〇鈔がまかなわれるに過ぎず、そのほかの、菊池川左岸、大浜地域の一、九三五鈔、右岸の滑石地域一、〇一三鈔のためにはそれぞれ、千田、川崎の二つの揚水ポンプによって水が汲み上げられてきた。つまり老朽したロスの多い水路、維持費のかさむコスト高な用水を使ってきたのである。

利用度の高い用地を造成し、さらに淡水湖の水を利用して地域の農業と工業の振興をはかるとともに、海岸線の防災と交通の拡充をねらいとする多目的干拓の構想である。現在、農林省によって調査がすすめられているので、その促進をはかる。

## 電力計画

### 現況と問題点

最近における著しい経済の発展と産業構造の高度化により、エネルギーの需要は急激に高まりつつあり、これを電力についてみると、本県における電力需要の推移および電力需給の状況は、表1および表2のとおりである。

九州における電力供給の実情は、火力六七%に対し水力三三%で、いわゆる火主水従型となっているが、これは従来域内に多数の炭田地帯を控え、しかも水力電源地帯が南部に偏在する一方、需要産業は産炭地域に近い北部に集中してきたことなどのため、火力の開発が活発に行なわれたからである。

しかし、九州の電気料金は全国的にみて高く、昭和三十七年における電力料金は、全国九電力会社中最高、電灯料金は、第二位の高い料金を示している。しかも、全国的に増大する電力需要に

## 建設譜

事業の心臓部ともいえる新白石堰は、三六億四千万円を費し三九年三月に完成をみた。毎秒一四<sup>三</sup>の取水量は、農業用ダムでは全国でも屈指の規模である。

現在、左岸の一号幹線水路が急ピッチで延びており、四〇年度中に八、五〇〇鈔まで完成する。左岸の二、二六〇鈔の水田に加え、四三年止め予定の横島干拓四八四鈔をうらすほか、八嘉台地一二九鈔の畑地かんがいも可能にする。

右岸の第二号幹線水路は、既存水田の一、一八〇鈔のほか、鍋、築山地区に二五〇鈔を開田することになり、これで、コスト高な維持費を節減し、水不足による減収を補い、年間一億九千万円の実質増となるのである。

## 水資源の高度利用による総合開発

### —緑川総合開発とは—

緑川は、年間平均約九億立方分の豊富な水量をもちながら、地形的条件にも制約されて、利用されていたのは全水量の約八%。反面、洪水時には、年平均約四億六、〇〇〇万円にのぼる被害を流域に与えてきた。

事業の目的は緑川流域の洪水被害をなくし、豊富な水資源を高度に利用して、地域の総合開発を図ろうというものである。中心となる事業は、砥用町花定野地点に建設される、建設省直轄の緑川ダムである。

規模は堤高七、七、堤長三〇、五、総貯水量四、六〇〇立方、有効貯水量三、五〇〇立方、洪水調節、農業用水、発電、上水道などに利用される多目的ダムである。

計画をみよう。まず洪水調節では、洪水計画量、毎秒二、八〇〇立方分のうち、八〇〇立方分をダムでカット。三七年からすでに着手されている下流の河川改修とあわせて、洪水の被害から解放される。

利水の面では、流域優先の考え方にた